

令和 4 年 9 月 20 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00700

研究課題名(和文) 東アジア諸王室における「后位」儀礼比較史の協業的研究

研究課題名(英文) Collaborative Approaches to Explore Comparative Histories of Queen consort Position Rituals Within East Asian Royal Courts

研究代表者

伴瀬 明美 (BANSE, Akemi)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90292797

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：前近代東アジア諸王室に共通してみられる「后位」(皇后、王后など)にかかわる儀礼・諸制度の基礎研究を通じて、中国礼制の東アジア地域における受容と独自の発展の両側面の在り方を明らかにしたいという根本的な問題意識のもと、東アジア諸地域研究者の協業的研究体制によって、諸王室の礼典・儀礼書の厳密な解読を基盤とする堅実な実証研究に取り組み、中国礼制が東アジア諸地域に継受されていく具体的様相のみならず、多様な受容のあり方、非漢族国家における礼的逸脱とも言うべき特殊性の具体的様相を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前近代東アジア諸王室に共通してみられる「后位」(皇后、王后など)にかかわる儀礼や諸制度に関する実証的な基礎研究を通じて、中国礼制が東アジア諸地域に受容されていく具体的様相を考察し、中国礼制を継受するだけでなく、多様な受容のあり方があり、とくに非漢族国家においては礼的逸脱とも言うべき特殊性がみられることを、その具体的様相を明らかにした。

本研究の成果は、東アジア諸地域における文化的・社会的多様性の歴史的背景の解明に資するものといえるだろう。

研究成果の概要(英文)：The project is based on a fundamental interest in clarifying both the "reception" and "unique development" of the Chinese Li system in East Asia through basic research on the rituals and systems related to "后位" (皇后、王后, etc.) commonly found in the royal families of pre-modern East Asia, and is being conducted through a collaborative research system among researchers specializing in the history of East Asian regions. This joint research project has conducted solid empirical research based on rigorous deciphering of royal ritual texts, and has clarified not only the specific aspects of the inheritance of the Chinese Li system in the East Asian region, but also the various ways in which the system was accepted and the particularities that could be called ritual deviations in non-Han states.

研究分野：日本中世史

キーワード：東アジア 王室 后位 儀礼 后妃 礼制 後宮 王権

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 27 年度～平成 29 年度基盤研究(C)15K02813「東アジア諸王室における「后位」比較史研究に関する国際的研究基盤の形成」(研究代表者・伴瀬、以下「前科研」とする)の成果をふまえた次段階の研究としての位置づけを有する。

前科研は、前近代東アジアに共通してみられる「后位」にかかわる儀礼・諸制度の基礎研究を通じて、前近代東アジアの国際秩序形成において重要な要素であった中国礼制の各地域における受容と独自の発展の両側面の在り方を考察し、関連文献目録・その多言語版解説・儀礼書の訳注等を東アジア研究の国際的共有基盤として作成・公開することを目的としたものであった。前科研は一定の成果を挙げたが、その研究過程において、中国礼制自体の歴史的变化の解明や、日本の后位関連儀礼の逸脱とも言うべき特殊性の解明といった新たな重要課題が浮き彫りになった。

2. 研究の目的

東アジア地域(中国・朝鮮・日本)の諸王室には、共通して「后位」(皇后、王后等)という身位がみられる。これは前近代東アジアの国際秩序形成において重要な要素であった中国礼制の影響を示すものだが、その「后位」の在り方は諸王室によって実に様々である。本研究は、諸王室の后位関連儀礼を相互に比較し分析することによって、東アジア諸王室における「后位」の国制上や社会的な位置づけを明らかにし、そこに表れる中国礼制の継受、独自の発展、さらに逸脱の具体的様相を解明する。

3. 研究の方法

本研究は、諸王室の主要礼典・儀礼書を厳密に解読し訳注を作成することによる堅固な実証を重視し、参画研究者が各自の専門分野を超えて共に携わる協業的な研究体制のもと、A～Cの三点を研究の柱とする。

(1) 主要礼典・儀礼書における后位関連儀礼の解読・訳注作成

主対象とする礼典・儀礼書は、『大唐開元礼』(中国、8世紀)、『高麗史』「礼志」(朝鮮、10～14世紀 15世紀編纂)、『国朝五礼儀』(朝鮮、15世紀)、『儀式』・『江家次第』(日本、9～12世紀)である。前科研においては、後代の中国礼制と東アジア諸国の礼制に大きな影響を与えた、とそれを継受したの解読・訳注作成を行ったが、本科研においてはそれに加えて、后位や王族の在り方において独自性を色濃く有した高麗時代の儀礼書、および中国礼制から全く逸脱していることが指摘された日本の儀式書の解読と訳注に取り組む。

(2) 后位儀礼比較による中国礼制受容の具体的様相に関する研究

(1)の成果をふまえ、東アジア諸王室における后位の国制上の位置づけや社会における在り方を比較・分析し、諸王室における中国礼制の受容(継受・発展・逸脱)の具体的様相 - とくに諸王室における独自の発展や逸脱の側面 - を明らかにする。また、中国礼制自体の歴史的变化の様態を明らかにし、その背景と、周辺諸王室における礼制への影響を考察する。

(3) 海外現地調査および現地研究者との学術交流

儀礼書の解読に基づく儀礼研究において非常に重要なのが、儀礼の「場」の現地調査であり、本科研では中国の皇宮空間の踏査を行う。「日本人研究者による東アジア礼制比較史研究」という限界を超えて研究を発展させるため、中国・台湾・韓国等の研究者との緊密な研究交流を行う。

4. 研究成果

(1) 主要礼典・儀礼書における后位関連儀礼の解読・訳注作成について

『大唐開元礼』(唐)、『国朝五礼儀』(朝鮮)、『儀式』・『新儀式』・『江家次第』(日本)の冊后・冊妃儀礼の解読をおえ、研究成果報告書『東アジア諸王室における「后位」儀礼比較史の協業的研究』(2022年3月刊)に訳注を掲載した。また金朝の礼書『大金集礼』の后位関連儀礼の解読に着手した。

(2) 后位儀礼比較による中国礼制受容の具体的様相に関する研究

公開研究会である東アジア后位比較史研究会を拠点とし、東アジア諸王朝・王室における后位・后妃・礼制等に関わる多様なテーマの研究報告をうけて討論を行うことによって研究を進めてきた。その成果の一部は雑誌論文等の形で公開された。

本研究会には、関西や東北からの参加者のほか、大学院生や留学生、社会人なども含め様々な場で研究を続ける研究者が集まり、とくにオンライン開催となつてからは海外からの参加者も増え、本科研期間中にのべ 390 名の参加があった。

また、3 回の国際研究集会を行った。2019 年 2 月 7 日「古代朝鮮・日本における后位、王族女性の諸相」、2019 年 11 月 23 日「則天武後のストラテジー」、 「東アジア諸王室における礼的 逸脱 の諸相」である。 の成果は研究成果中間報告書『東アジアにおける女性君主・后妃・王族女性の諸相』(2020 年 4 月刊)に掲載し、 の成果は研究成果報告書(上掲)に掲載した。とくに においては、東アジアにおける非漢族・遊牧系民族国家の王室儀礼における礼的逸脱の解明という新たな研究課題を見出すという成果を得た。

(3) 海外現地調査および現地研究者との学术交流

2020 年初以降 COVID-19 の世界的流行は、儀礼の「場」の現地調査および現地研究者との学术交流を研究方法の柱とする本研究にとって大きな打撃であり、2018 年 5 月の宗廟大祭(韓国)の調査において収穫を得たものの、前科研からの念願であった中国の皇宮空間の調査は行えず、調査を通じての現地研究者との学术交流も行えなかった。しかし、それに替わる研究活動として上掲の 3 度の国際研究集会を行った。Web 会議の普及により在外研究者との交流はむしろ盛んになった側面もあり、本共同研究が活動拠点としている東アジア后位比較史研究会(オンライン開催)への在東アジア諸国研究者の参加が恒常化したほか、オンラインにより国際研究集会を開催し、研究関心を共有する在外研究者との交流を深めることができた。

(4) その他

中国語主要関連論文の翻訳作業を進め、その成果をまとめて研究成果中間報告書(上掲)に掲載した。また、前科研において作成した后位関連文献目録の増補作業を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 伴瀬明美	4. 巻 680
2. 論文標題 「新迎」「新迎え」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伴瀬明美	4. 巻 33
2. 論文標題 日本「皇后」的特質 以立后儀式爲中心	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古今論衡（中央研究院歴史語言研究所、台湾）	6. 最初と最後の頁 59-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 33
2. 論文標題 日本古代皇后制度的形成與中國禮制	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古今論衡（中央研究院歴史語言研究所、台湾）	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 豊島悠果	4. 巻 233
2. 論文標題 金朝と高麗	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 114-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 242
2. 論文標題 唐の礼官と礼学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 77-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田辰彦	4. 巻 122
2. 論文標題 東晋南朝の皇太妃	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高瀬奈津子・江川式部	4. 巻 12
2. 論文標題 『封氏聞見記』訳注(七)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 札幌大学総合研究	6. 最初と最後の頁 84-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 26
2. 論文標題 日本古代墓誌と韓国、そして武寧王陵誌石	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 百済学報	6. 最初と最後の頁 219-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 23
2. 論文標題 『大唐開元礼』礼目の再検討 収載されなかった祭祀儀礼を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明大アジア史論集	6. 最初と最後の頁 114-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高瀬奈津子、江川式部	4. 巻 11
2. 論文標題 『封氏聞見記』訳注(六)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 札幌大学総合論集	6. 最初と最後の頁 138-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 22
2. 論文標題 『大唐開元礼』の“如式”“如常式”について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法史学研究会会報	6. 最初と最後の頁 173-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田辰彦	4. 巻 10
2. 論文標題 唐代記録南朝陵墓信息的背景 従《元和郡県図志》看該行為的歷史意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 周秦漢唐文化研究	6. 最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高瀬奈津子、江川式部	4. 巻 2
2. 論文標題 『封氏聞見記』訳注(八)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 札幌大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 201-218
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 16
2. 論文標題 東アジア儀礼研究の新視角:「物品目録」の検討から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文	6. 最初と最後の頁 571-595
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江川式部	4. 巻 122-2
2. 論文標題 唐代の藩鎮と祀廟	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件(うち招待講演 8件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 三田辰彦
2. 発表標題 三国両晋五胡廟制与“太祖”廟号
3. 学会等名 《文史哲》青年学者工作坊暨第十二届中国中古史青年学者联谊会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江川 武部
2. 発表標題 唐の弔祭と冊礼
3. 学会等名 國學院大學国史学会例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伴瀨 明美
2. 発表標題 Noble Women as Court Attendants in Early Medieval Japan (panel topic “Negotiating Tensions: Rituals and Changing Socio-Political Conditions in Premodern China, Japan, and Korea”)
3. 学会等名 Association of Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲田 奈津子
2. 発表標題 日本古代墓誌と韓国、そして武寧王陵誌石
3. 学会等名 武寧王陵誌石學術シンポジウム「武寧王陵誌石の新しい解釈」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江川 武部
2. 発表標題 『大唐開元礼』礼目の再検討 収載されなかった儀礼を中心に
3. 学会等名 東方学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三田辰彦
2. 発表標題 不受歡迎的皇帝 晋宋“僭主”的正統性建構与解体
3. 学会等名 第3回六朝歴史与考古青年交流会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三田辰彦
2. 発表標題 功業か孝道か 三国兩晋楚宋の宗廟における“太祖”の位置づけ
3. 学会等名 三国志学会第13回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三田辰彦
2. 発表標題 魏晋南北朝の朝儀における「称万歳」と正統性
3. 学会等名 2018年度東北史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三田辰彦
2. 発表標題 近40年来日本の六朝皇室研究回顧与展望
3. 学会等名 浙江大学歴史系講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三田辰彦
2. 発表標題 魏晋南北朝の宗廟祭祀における「太祖」
3. 学会等名 「東アジアの王権と正統性」ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江川式部
2. 発表標題 中国唐代の死生観 官人が撰じた家族の墓誌・墓祭文から
3. 学会等名 國學院大學文学部 公開研究会『死生観の歴史学 人は死をどのように捉えてきたか』（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伴瀬明美
2. 発表標題 Exploring the Nyoin Institution and its Significance
3. 学会等名 Gendering Transformations: Feminist Knowledge Production and Trans/national Activist Engagement Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伴瀬明美
2. 発表標題 中世天皇家研究の「はじまり」と展開 付、女院と中世天皇家
3. 学会等名 大阪大学歴史教育研究会第138回例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 稲田奈津子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 なし	5. 総ページ数 6
3. 書名 狭川真一さん還暦記念会編『論集 葬送・墓・石塔』	

1. 著者名 伴瀬明美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 17
3. 書名 服藤早苗・高松百香編著『藤原道長を創った女たち 望月の世 を読み直す』	

1. 著者名 伴瀬明美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 なし	5. 総ページ数 11
3. 書名 基盤研究(C)研究成果報告書『女院からみる中世王権の特徴 院号宣下の背景と経緯の検討を通して』	

1. 著者名 稲田奈津子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 42
3. 書名 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編『古文書の様式と国際比較』	

1. 著者名 江川式部	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 37
3. 書名 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編『古文書の様式と国際比較』	

1. 著者名 江川式部	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金子修一先生古稀記念論文集編集委員会発行	5. 総ページ数 37
3. 書名 金子修一先生古稀記念論文集編集委員会編『金子修一先生古稀記念論文集 東アジアにおける皇帝権力と国際秩序』	

1. 著者名 伴瀬明美 (100 - 114頁)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 324
3. 書名 辻浩和・長島淳子・石月静恵編『女性労働の日本史 古代から現代まで』	

1. 著者名 江川式部	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 9+341+16
3. 書名 津田資久、井ノ口哲也、渡邊英幸、水間大輔、松下憲一、森田美樹、江川式部、宮崎聖明、渡辺健哉、小川快之、小野寺史郎、小笠原淳、森平崇文著『教養の中国史』	

1. 著者名 稲田奈津子(159～174頁)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 310
3. 書名 佐藤信・小口雅史編『古代史料を読む 下 平安王朝篇』	

1. 著者名 稲田奈津子(439～469頁)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 520
3. 書名 古瀬奈津子編『律令国家の理想と現実』	

1. 著者名 稲田奈津子(43～65頁)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 378
3. 書名 小口雅史編『律令制と日本古代国家』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Negotiating Tension: https://www.eventscribe.com/2019/AAS/SearchByBucket.asp?f=trackname&bm=8&SDDO=0&pfp=Inter

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三田 辰彦 (MITA TATSUHIKO) (00645814)	東北大学・文学研究科・専門研究員 (11301)	
研究分担者	豊島 悠果 (TOYOSHIMA YUKA) (10597727)	神田外語大学・外国語学部・准教授 (32510)	
研究分担者	稲田 奈津子 (INADA NATSUKO) (60376639)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	江川 式部 (EGAWA SHIKIBU) (70468825)	國學院大學・文学部・准教授 (32614)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	保科 季子 (HOSHINA SUEKO)		
研究協力者	榊 佳子 (SAKAKI KEIKO)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 則天武后のストラテジー	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 古代朝鮮・日本における后位、王族女性の諸相	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 東アジア諸王室における礼的 逸脱 の諸相	開催年 2020年～2020年
--------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	南カリフォルニア大学			
韓国	韓国学中央研究院			
その他の国・地域（台湾）	中央研究院歴史語言研究所			
韓国	忠南大学校			